

単元名 ふえたり へったり

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 数量の増減に着目し，増えた，減ったという言葉で話をしたり，数図ブロックを操作したりして，増減の意味を理解することができる。
 (2) 増減の意味を具体的な事象や操作と関連付けて考えることができる。
 (3) 数量が「増えたり」「減ったり」する事象に興味・関心をもち，進んで変化の様子を捉えようとする。

標準的な展開例

01040106_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 バスの乗り降りの挿絵を見て，数量の増減を数図ブロックで操作する。[p. 38・p. 39] ○最初から乗っている人や乗り降りする人を決める。 ○役割に沿ってバスの乗り降り活動をする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ふえたりへったりするといくつになるかかんがえよう。 ○乗客の増減を数図ブロックで表す。	・バスの乗り降りでの数学的活動を通して，連続的な数の増減事象を体験し，増えた，減ったということを実感できるようにさせる。 ・10より大きい数にならないように注意する。 ・「○人乗ってきました。○人増えて，□人になりました。」と言葉を口にしながら操作させる。 【評】増減に応じて数図ブロックを操作する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

【備 考】

本単元は，加法や減法を学習する前段階として，数量が増えていく場面や減っていく場面を体験的に捉えることを学習する。そこで，「エレベーターごっこ」など児童の身近な活動を通して，増えていく場面や減っていく場面を実際に体験させるようにすることが大切である。